

STUDENT INTERVIEW

大串 安希子 (2011年02月入学)

オーストラリアという環境に 留学したからこそ得られた経験



JALC を選んだ理由

日本語教師としての教壇力を短期間で取得できるということ、何よりも教える現場での実践スキルに一番の重きを置いたカリキュラムというところに惹かれて選びました。日本語教師に興味があったということは勿論ですが、人前に立つことが苦手ということや、第三者に分かりやすく説明をすることが苦手だった私にとっては、実践重視で教壇力を鍛えることでそういった自分の弱点克服にも繋がるのではないかと思ったからです。

オーストラリアで勉強してみて…

受講中は日本人だけでなく日本語学習者と話す機会も多いため、色々な意味で「日本語漬け」でした。講座で直接法での教授法のポイントについて勉強・実践していきますが、日本語学習者と直接話すことで教える際のポイントを体感して再確認することが出来ました。これはオーストラリアという環境に留学したからこそ得られた経験だと思います。そしてその人たちがもっと日本語を勉強したいという声を聞いたりすると、日本語教育に興味がある人間としてとても良い刺激になりました。

皆様へメッセージ

教師に向いているのかどうか、自信がなくなるときもありましたが、日本語をもっと知りたい、伝えたいという気持ちは変わりませんでした。それは先生方を始め、一緒にチームの仲間や先輩・後輩の存在が支えとなってくれたからだだと思います。日本語教師になるならないというのはおいておいて、「日本語のすばらしさを誰かに伝えたい」という気持ちがあればトライしてみるべきだと思います。

授業内容について

基本的に理論だけでなく模擬授業も交えて行う授業形式のため、単に理論を詰め込むだけではきちんと理解しきれないであろう部分も、納得して自分の中に落とし込めることができます。また、授業自体は受講生が主体となって進められていくスタイルなので、実際に教師になった際にそのクラスを引っ張る力も普段から鍛えられることや、常に自ら考えて解決に導く力を養うことができるということも JALC の大きな特徴だと思います。

オーストラリアを選んだ理由

以前に旅行でオーストラリアに来たことがあり、その時に日本人にとってとても住みやすそうな国だという印象を持ちました。また、私はワーキングホリデービザがまだ取得可能な年齢なので、その下調べも兼ねて、少しの間滞在しながら勉強してみたいと思いオーストラリアを選びました。

卒業後の展望について

元々日本語教師養成講座を受講した理由が結婚しても出産してもずっと続けられる仕事だからでした。しかし、他にもチャレンジしたいことは沢山あり、現時点ですぐに日本語教師になるかどうかははっきりとは決めていません。日本語教師養成講座の受講を終えた今、もう一度この11週間で学んだことをゆっくり振り返りながら将来についてしっかりと考えたいと思っています。ただ、日本語のすばらしさを誰かに伝えたい、日本語教育にどのような形でいいから携わりたいという気持ちは変わりません。

思い出の一枚



クラスメイトが「仲間」になった瞬間

この11週間、色々なことがありました。楽しいこともあれば、ちょっとした認識のすれ違いからお互いに誤解を招いてしまい、言葉の重みや大切さを痛感する出来事もありました。しかしそこで相手を拒否するのではなくお互いに思っていることをしっかりと丁寧に伝えることで、それまでバラバラだった5つの歯車が一気にかみ合って回り始め、「仲間」になる瞬間を体験しました。それはきっと私だけでなく、他の4人も同じ気持ちだと自信を持って言える瞬間だったと思います。大人になるにつれてこのような経験は少なくなりますが、人と人との関係という点で原点回帰することが出来、貴重な体験となりました。